

—— 総務委員会 ——

委員長	小杉 朋希
副委員長	平尾 稔幸
副委員長	宮崎 正之
副委員長	石塚 和彦

1) 2015年度通常総会

- 2015年5月7日(木) 東京ドームホテル札幌
支部総会 : 議案につき可決承認された。
総会員数162名 総会出席者 83名(内、書面表決 名、委任状 名)
- 表彰式 : 学生卒業設計コンクール
- 意見交換会 : 賛助会員及び来賓を交えて意見交換会を開催。

2) 支部総務委員会

- 各事業への協力。本年度は特に大きな事業が無かったが、来年度(2016年度)以降の事業企画重視の新体制の準備に向けて事業予算案策定等の活動を行った。
- 2016年度予算案策定。
- 入退会に関する事務手続き。
- 北海道事業 : 高校生建築デザインコンクールへの実施運営委員会への参加。
北海道・一社) 北海道建築士事務所協会・一社) 北海道建築士会 との共催。
- 事業委員会教育委員会主導のジュニアオープンデスクへの協力。

4) 本部総務委員 無し

—— 職能業務委員会 ——

委員長 齊藤文彦
副委員長 中原隆一
副委員長 小倉寛征

本委員会では、

- ① 北海道建築設計会議
 - ② その他、発注団体、関係団体による会議
- についての活動を行った。

何れも業務環境の向上と他団体との情報共有を目的としている。

- ① 北海道建築設計会議（建築設計関連の 11 団体(10 団体+新聞社)で構成している北海道独自の会議)、に毎月の参加活動を実施している。昨年度は計 10 回開催された。2003 年に発足し、各団体の担当者による情報交換の場として定着しているが、会のありようを確認するため、第 130 回幹事会では、各団体の代表者によるトップ会談が行われ、それぞれの団体の活動状況や取組みについて確認した後、会の継続を確認した。
- ② その他関係団体による会議：北海道開発局、北海道、札幌市、建築士会、建築士事務所協会と JIA による公共建築設計懇談会幹事会に出席し、公共の取り組みや業務上の課題について確認・協議した。また、全道確認円滑化対策連絡協議会（2 回）及び全道建築行政連絡会議への対応も行った。

委員会としては、今後も建築家の職能の確立と業務品質の向上を目指し活動していく。

委員長 五十嵐 雄祐
副委員長 豊山 孝雄
副委員長 十河 昌司

1) 建築展・講演会・活動

- ・1/21～25 北海道建築展開催
会場：札幌駅前通地下歩行空間

- ・6/9 アアルトセミナー開催
「アルヴァ・アアルトの空間構成」
会場：北大 MUTSUMIHALL
講師：水島信氏

- ・7/31 第20回 AIJ-JIA ジョイントセミナー開催
「防災サブカルチャー」
会場：内田洋行 ユビキタス協創広場 U-cala
講師：北海道大学教授 岡田成幸先生

- ・8/11 建築家出江寛講演会開催
「建築とは哲学することである」
会場：サッポロファクトリー ファクトリールーム
講師：出江寛氏

- ・10/2 植田実講演会開催
雑誌『都市住宅』を通して
会場：内田洋行 ユビキタス協創広場 U-cala
講師：植田実氏

- ・北のジュニア・オープンデスク（教育委員会）
8月3日～8月6日：オープンデスク開催
参加者：北海道名寄産業高等学校 中矢 共起さん（2年）→（株）アーキファイズ
参加者：北海道名寄産業高等学校：鈴木 志穂さん（2年）→（株）アイエイ研究所
8月7日 見学会・交歓会
見学場所：大成建設株式会社札幌支店（大成札幌ビル）
交歓会：大成建設株式会社札幌支店 会議室
参加者：中矢さん、鈴木さん、和田博之先生、北海道教育庁 諸橋宏明主査、
大成建設 兼平智美氏、北海道建設業協会 今城昇課長、
JIA より上遠野支部長、小杉朋希、豊山孝雄、十河昌司

- ・高校生デザインコンクール
平成26年6月6日 第1回実施運営委員会に参加 募集要項の検討承認
平成26年9月12日 作品選定委員会 審査員として JIA より遠藤謙一良
平成27年12月15日 第2回実施運営委員会に参加 事業報告会

○昨年に比べて積極的に事業が開催された。

----函館地区----

委員長 川嶋紀夫
副委員長 小澤 武

2015年9月17日 JIA 金沢全国大会 山内氏出席

2015年9月30日 第1回函館地区会議 今後の活動方針
2016年にポケット展の開催の検討

2015年11月13日 ポケットの開催場所の調査
函館蔦屋書店の貸しホールの見学・店長と打ち合わせ

2016年1月20日 第2回函館地区会議
蔦屋書店での開催を決定 開催日を6月-8月予定

その他 JIA 北海道支部会議 正副会議・幹事会 6回

—旭川地区—

委員長 軽部 望

副委員長 柳 雅人

- 2015/4/10 【2015年度第1回旭川会会議】2015年度活動報告、2015年度活動計画、運営体制について他
- 2015/4/22 【Asahikawa School 18 「JIA旭川会メンバーによるリリーススピーチ」】開催
- 2015/5/07 【2015年度北海道支部通常総会】軽部、大矢、石田 出席
- 2015/5/09 【Asahikawa School 19 「JIA旭川会メンバーによるリリーススピーチ」】開催
- 2015/5/15 【2015年度第2回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議
- 2015/5/26 【第1回正副委員長会議】柳 出席
- 2015/6/19 【2015年度第3回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議
- 2015/6/30 【Asahikawa School 20 「構造デザインとエンジニアリング」】開催
- 2015/7/03 【旭川市庁舎展図録編集～取材】長原實氏インタビュー
- 2015/7/17 【2015年度第4回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議
- 2015/7/21 【第2回幹事会】軽部、石田出席
- 2015/8/04 【Asahikawa School 21 「旭川のデザインの現場」】開催
- 2015/8/11 【2015年度第5回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議～ピアガーデンにて親睦会
- 2015/8/18 【第3回正副委員長会議、企画運営会議】軽部出席
- 2015/8/26 日本建築学会へ赴き旭川市総合庁舎保存・活用に関する要望書を嘆願（軽部・柳）
- 2015/8/28 【2015年度第6回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議
- 2015/9/11 【Asahikawa School 22 「建築設計の現場から」】開催
- 2015/9/25 【2015年度第7回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議
- 2015/9/28 【第4回正副委員長会議】軽部出席
- 2015/10/02 【旭川市庁舎展図録編集～建築学会現地視察立会】釧路工業高等専門学校建築学科 西澤岳夫先生来旭
- 2015/10/14 【2015年度第8回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議～長原實さんを偲ぶ会開催
- 2015/10/27 【第3回幹事会】軽部、石田出席
- 2015/11/16 【2015年度第9回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議～市庁舎セミナー打合せ他
- 2015/11/21 【第1回旭川市総合庁舎セミナー】開催
- 2015/11/24 【第5回正副委員長会議】柳 出席
- 2015/11/26 【2015年度第10回旭川会会議】市庁舎セミナー運営準備会議・打合せ
- 2015/11/28 【第2回旭川市総合庁舎セミナー】開催
- 2015/12/02 【2015年度第11回旭川会会議】市庁舎セミナー運営準備会議・打合せ
- 2015/12/15 【支部忘年会】軽部出席
- 2015/12/29 【2015年度旭川会忘年会】実施
- 2016/1/15 【2015年度第12回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議
- 2016/1/21 【第4回幹事会～新年交例会】軽部、大矢、石田出席
- 2016/1/22 【Asahikawa School 23 「東京近代建築ツアー」報告会】開催
- 2016/2/12 【2015年度第13回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議・市民参加型保存活動の会の立上げと内容について協議
- 2015/2/25 【第6回正副委員長会議】軽部出席
- 2016/3/11 【2015年度第14回旭川会会議】旭川市庁舎展図録編集会議・赤レンガ市庁舎の会運営準備会議
- 2015/3/22 【第7回正副委員長会議】軽部出席
- 2016/3/23 【2015年度第15回旭川会会議】赤レンガ市庁舎の会運営準備会議
- 2016/3/26 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会総会・北海道大学名誉教授角幸博氏基調講演・パネルディスカッション】開催（約60名参加）

委員長 小野寺 一彦
副委員長 眞壁 喜男

■ 2015年9月2日～9月6日

J I A北海道支部道東地区共催「月曜塾30周年記念事業」
会場 道立釧路芸術館 フリーアートルーム及びアートホール

- 1) 東海大学所有の世界的建築家たちがデザインした名作椅子を30脚展示し実際に座って頂く展示。
- 2) これまでに贈られた『君の椅子』10脚及び『希望の君の椅子』1脚を展示し実際に座って頂く展示。
- 3) 『君の椅子』プロジェクトに関する講演を磯田様・中尾様へ依頼し開催。
- 4) 椅子のミニチュア作りと折り紙建築によるワークショップを開催。

「名作椅子30脚展」

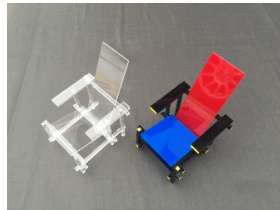
2015年9月2日(水)～2015年9月6日(日) 午前9時30分～午後5時 延べ来場者数 1092名



ワークショップ リートフェルト「Red&BlueChair」1/6 アクリルミニチュア製作
及び折り紙建築と椅子の製作

2015年9月5日(土) 午前9時30分～午後5時
2015年9月6日(日) 午前9時30分～午後1時

延べ参加者数 50名



記念講演「君の椅子」ものがたり

2015年9月6日(日) 開場午後2時 開演午後2時30分～午後4時30分
講師 磯田憲一(「君の椅子」プロジェクト代表)

中尾紀行(希望の「君の椅子」デザイナー) 参加者数 85名



統括

平日からのスタートにも関わらず、初日から大勢の来場者が訪れ、最終日には 1,000 人を超える観覧者数となりました。椅子のもつ魅力が一般の方々へ浸透されている結果であり、また実際に座る事が可能であった点が功を奏したものと思われます。ワークショップも好評のうちに終わり、講演会も道東地域では初の貴重な講演内容となり、こちらも盛況の中閉演致しました。

-----建築技術デザイン委員会-----

委員長：小室雅伸

特に活動はありませんでした。

(小室雅伸)

——支部建築家資格制度委員会——

委員長：山之内 裕一 副委員長（本部委員）：大田 司

委員：中藪 則喜、羽柴 功一、澤 康昌、岡田順博

■ 本部・資格制度委員会（WEB会議）

「正会員は全員登録建築家に」というスローガンのもと、実践する1年となりました。また、それに合わせる形で会員規定、各マニュアルの細部に至るまで見直しを行いました。

今後の検討事項として、下記を予定しています。

- ・「JIA 建築家（仮称）」のメリット開発
- ・一般の人々への浸透方法の検討
- ・建築基本法の議論
- ・規則、細則の詰め
- ・資格制度 HP のアップデート
- ・UIA アコードへの整合のもと、実務訓練制度の簡素化や試験方法の検討

支部の登録建築家への新規の登録数は、キャンペーンを行ったものの満足できる数字には未だ至っていないと感じます。キャンペーン期間はあと一年ありますので、今後は早めの対応と、受付期間の延長等、目指す目標を達成するには、考えていく必要があります。

■ 実務訓練部会

前年度同様、実質的な活動は行われておりませんが、本部委員会では、負担が大きいという見方を持つ意見が多数を占めます。今後はもう少し簡略化できるかどうか、検討していくこととなります。

■ 登録建築家更新審査

2016年3月に、登録建築家更新審査を行いました。

今回の更新予定者は北海道支部全体で48名です。内訳は、細則9条1（CPD108単位）による更新者31名、同9条3（一級取得後30年、かつCPD24単位）による更新者14名、同10条1（再登録者）による更新者3名。

3月1日、申請内容の調査を支部資格制度委員会で行い、支部認定評議会による審査を3月15日に行いました。評議会では、48名全員の更新要件審査を行い、規定の更新要件を満たしていると判断し、本部認定評議会へ審査結果を送付しました。

その結果3月31日の本部認定評議会で48名全員の更新が認定されました。

■ 登録建築家の新規認定審査

今回は、新規申請が6件ありました。支部資格委員会および支部認定評議会にて提出された資料および細則8条1に基づき、新規認定相当と認め本部認定評議会へ審査結果を送付しました。

その結果3月31日の本部認定評議会で6名の新規登録が認定されました。

以上、2015年度、支部建築家資格制度委員会の活動報告です。

—— 建築相談委員会 ——

委員長 奈良 顕子
副委員長 國澤 全克

2015年度内に、建築相談はありませんでした。

全国会議委員 笹栗 達夫
委員長 上遠野 克

北海道の「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」の対応とJIA災害対策委員会の支部窓口の委員会からスタートしました。

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などの震災が多く被害をもたらし、多くの貴重な教訓を残しました、被災建築物による二次的被害を防止・軽減するための「応急危険度判定」が重要とされ、平成7年度以降、震災建築物応急危険度判定士の認定・登録や全国の判定協議会と連携が行われ、北海道でも各支庁の協議会や建築関連団体が協力して相互支援の連絡協議会の早期の設立が求められ「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」は2006年2月より活動をはじめています。

また、2013年12月からはJIA本部災害対策委員会と連携することとなり北海道支部の災害対策委員として北海道支部も参加しており、JIA全体としての災害時の支援活動の枠の中に位置づけられるようになり、2014年度から新たな北海道支部の災害対策委員会が立ち上げられました。

災害対策委員会は災害時のネットワークとしてワンストップな機能が求められることから**支部4役**、正副委員長、各地区の代表となっており、総勢34名となっています。

15年度からは組織改編（全国会議化）がなされており、災害対策委員会としては16年度から新たなスタートとなります。

■ 15年度活動報告

- 6月29日、8月25日、10月27日、12月17日
災害対策全国会議 WEB 会議参加（笹栗）

-----国際交流委員会-----

委員長 小西 彦仁

今年度は特に活動はありません。

—— 選挙管理委員会 ——

委員長 橋本 敏明

2015年度支部役員の任期満了に伴う支部幹事及び監査役の改選選挙を実施しました。支部幹事のうち11名、支部監査のうち1名が改選となり、その後の支部総会で選任されることとなります。3月4日に第一回告示を行い3月16日に届出を締切りましたが、期日までに届出があり定員に達しませんでした。3月17日に改めて第二回告示を行い、締切り期日までにそれぞれ定数の立候補届け出があり受理しました。

資格審査の結果、支部選挙規定に全員適合しておりましたので次期幹事及び次期監査として当選人に決定いたしました。

—— 支部規約検討委員会 ——

委員長 橋本 敏明

支部規約検討委員会は、前の年度までの北海道支部規約の全面的見直し作業も一段落して、規約の実際の運用に入りました。そのため規約検討委員会は、実際の運用によって不都合がでない限り検討作業は休止しているところです。従いまして、当年度は目立った実績はありませんでした。

—— 住宅部会 ——

住宅部会代表世話人 大杉 崇
副代表世話人 五十嵐雄祐
副代表世話人 弘田 亨一
会計世話人 小尾 慎
I T世話人 鷺見 健二
世話人 赤坂 真一郎
： 石塚 和彦
： 新貝 孝之
： 河村 直記
： 辻 和永
： 丸田 知明
監 査 真壁 喜男

2016年2月19日 臨時総会開催（代表世話人の変更について）
2月19日 新ナイトセミナーvol.3 開催（講師 遠藤香織/小西彦仁）
「建築を美しくするライティング」



第6回「J I A. テスクチャレンジ設計コンペ」の挑戦

私たち北海道支部と全国に独創的な外断熱工法を提案する(株)テスクが毎年共同で主催している環境型設計競技(コンペ)を紹介したい。J I A北海道支部の主催するコンペの中でも、毎年時流の風を捉えた社会性の高いテーマ設定が特色であり、「設計者の環境的感性を育てると共に、その豊かな創造力で次世代における建築の価値を広く問う」ことを目的として始まり2015年は第6回目の開催となった。21世紀が環境の世紀と呼ばれて久しいが、それは同時に20世紀型の「発展」や「成長」のあり様を問い直す時代とも言えるだろう。既に豊かさを達成した先進国にとって今までの成長を維持することがどんどん難しくなるのと同様に、今後は発展途上国といえども、かつての先進国が行ったような、環境消費型の成長は難しい。そんな時代に生まれたこのコンペは、長らく分離して教えられ位置づけられてきた「意匠」と「環境」を融合した視点で建築を捉え直し、問題の解決を図ることを基本としている。最近の参加者の傾向として意匠と環境を選考する学生同士の混成チームや緻密なフィールドワークを元に提案のリアリティーを高めるスタイル、はたまた意匠系の頭だけでは足りない困難さにあえて挑戦するチャレンジャー等々、北海道のみならず首都圏や遠く関西からもエントリーをいただくようになった。

1. 特色ある課題設定

特に課題設定は当コンペのもっとも特徴的で苦勞する作業といえる。時流の風を睨んだ社会性の高いテーマを中心に実行委員が街のあちこちを移動しながら会議を進める。度重なる会議を同じ会議室でしかめ面で続けるのではなく意図的に思考の場を変える事でまちに潜むさまざまな課題を出題者自ら発見すること、そうした新鮮な気付きや閃きが毎年のコンペのテーマの源泉となっている。

2. 特色ある審査委員長と後任継承のシステム

意匠設計者の団体で催す設計競技でありながら、審査委員長は道内の環境系研究者にお願いするのも当コンペの特色といえる。また審査委員長は後任を指名し原則任期が2年の間、活動を共にすることで引継ぎも完了するというシステムを導入し、二年間先輩の背中を見ながら次の審査委員長を育てるといふシステムを採用している。

3. 特色ある審査

ここ数年、コンペの審査は札幌中心部の地下街で行き交う一般市民も交え公開イベントとして行っている。特に最終選考に残った7~10作品の設計者によるプレゼン合戦と審査委員とのやり取りは時に白熱し、笑いも誘う。建築設計というものづくりはある側面で見れば膨大な合意形成の連続ともいえる。普段慣れた意匠系教官からの想定内の質問とはまったく性質の異なる環境系の識者からの突っ込みはかなり刺激的なようでここ数年は意匠系と環境系の学生による合同チーム増加の要因ともなっている。

第6回 J I A. テスクチャレンジ設計コンペ2015より

テーマ：『不便が気持ちのよい住まい』

私たちの身の回りに溢れかえる便利さを疑うことを求めた課題。

詳しくはコンペ専用FBで <https://www.facebook.com/Jiatesukucompe>



緻密なフィールドワークと巨大な模型を前に雪や寒さに対する工夫のみならず、農業生産から販売までを総合的に提案した北海道科学大学チームは最優秀賞に輝いた。
作品名:「六花の農」



空間を決定付ける環境要素を追求したプレゼンで優秀賞を獲得した北海道大学工学院チームの作品。
日頃のサーベイや非常にロジカルに雪や寒さ、日射利用に取り組んだ点が評価された。作品名:「壁の帆船」



審査員と観客に囲まれて最終審査に臨んだ北海学園の山崎さんのプレゼン。環境技術の発達した北海道だからこそそれをういてより高い快適性と空間性にフォーカス可能なのでは、という主張が優秀賞につながった。

作品名:「ドアのアト」

4. 今後の展開

当初は地域色に注目し、ある種ローカルな試みとして始まった当コンペでだったが嬉しいことに近年急に多くの参加をいただくようになった。その背景には冒頭にも記した世紀をまたぐ成長に対するパラダイムシフトがあるのかもしれない。今や建築というものづくりはさまざまな環境的配慮と建設後に連なる、複雑なステークホルダーに対する合意形成や説得なしには成立し得ない。そんな時代に生きる設計者を養成する一助として今後とも積極的に取り組んでいきたいと思う。

1) JIA 全国学生卒業設計コンクール 2015

毎月のWEB会議を行ない、全国JIAの担当者の協力のもと自主費用により、新宿アイランドタワーBF1F・アクアプラザにおいてJIA全国学生卒業設計コンクール2015開催致しました。

北海道支部から選出された3名、山田 竜平君(北海道科学大学)、菊池 翔太君(北海道科学大学)、中山 琴未君(北海道芸術デザイン専門学校)が参加、山田君がファイナリストに残り、見事に金賞をいただきました、北海道支部においての初めての快挙です。各支部、地域会から選出された全国の作品を前に審査員、各支部地域会担当者、学生達が真剣な議論と評価を繰り返す、建築家が選ぶコンクールは、学生達の心に残る、全国で試される良いコンクールでした。

2015年6月26日(金)作品搬入

6月27日(土)公開審査、講評、表彰、懇親会

6月28日(日)展示会、作品搬出

審査委員 大野秀敏(審査委員長)、佐々木睦朗、山下保博、八木佐千子、原田真宏(敬称略)

2) JIA 北海道支部学生卒業設計コンクール 2016 審査経過

2016年 1月14日 ワーキンググループにて日程、各大学、高専、短大、専門学校に案内を発送

2016年 2月15日 ワーキンググループにて審査員を確定

審査員長 下村 憲一(株式会社環境設計) JIA 会員

審査員 堀尾 浩(堀尾浩建築設計事務所) JIA 会員

五十嵐雄祐(五十嵐ユースケ設計室) JIA 会員

以上の三氏による審査を決定

3月16日(水) 内田洋行ユビキタス協創広場 U-cala にて公開審査にて厳正な審査の基、

審査員の投票結果をもとに協議し、金賞1点、銀賞1点、銅賞1点、

次点を含む審査員特別賞3点選出。

5月12日(木) JIA 北海道支部総会において各賞の表彰状を授与予定。

入賞者

受賞者	賞名	作品タイトル(サブタイトルまで)	大学(学部不要)
青葉 桜	金賞	中心紋	北海道大学
河中 宗一郎	銀賞	湖水の景	北海学園大学
櫻村 圭亮	銅賞	残沼の址(ざんしょうのあと)	北海道大学
高嶋 健伍	審査員特別賞	Behind the 4grid - 奥行のある建築空間の提案 -	室蘭工業大学
村上 賢人	審査員特別賞	好奇心が穿ち、学びが貫通する。-定山溪温泉街を舞台として-	北海道大学
南 嗣美	審査員特別賞	国立国会図書館	北海道科学大学
河井 玲奈	—	筒の余白、ひとの温度。-シモキタ再出発物語-	北海道大学
石川 草太		補助線の家	北海道大学
工藤 遼一		趾と跡(アトとアト)	北海学園大学
吉田 昂平		つながる器	北海学園大学
大内 冴		Plantrail	北海道芸術デザイン専門学校
佐藤 夏菜		Time axes ~時間軸がおりなすストーリー~	北海道芸術デザイン専門学校
後藤 裕也		林相の道~アイヌ伝統工芸を継承するための場所の提案~	北海道大学
原部 早穂		METASITE Sapporo	北海道芸術デザイン専門学校
日下 みのり		夕霧立つ	北海道大学

—— 苦情対応委員会・職責委員会 ——

委員長 中原 隆一
副委員長 中藪 則喜

今年度は、会員に対する苦情は1件もなく、又、職責を問うケースも発生しておりませんでしたので、その旨報告致します。